

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム百万遍(2F)		
所在地	京都府京都市左京区田中門前町103-27		
自己評価作成日	平成26年 8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670600200-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670600200-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年9月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新たな地域での地域の関わりを大切に、食品業者も地域の商店を利用し、運営推進会議で地域住民の参加、又は、情報交換や地域行事への参加等を少しずつではあるがはじめています。以前の地域でも継続的に行事に参加したり、当ホームに来て頂き、1階のディセンターも巻き込み事業所全体で地域交流を深めている。  
転倒防止の為、日常的な散歩や体操を行い下肢筋力の維持に努めている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所では法人の理念の基「地域と共にその人らしく」という事業所の理念を立て、地域との交流を深めていくことを念頭に日々ケアを行っています。理念の実践に向けた目標は、現状を踏まえて変更し、目指すべき目標をより明確にし、新たな地域での交流やケアの向上に活かしています。現在の場所に移転してまだ半年ほどですが、運営推進会議に地域の方の参加を得られるようになり、認知症サポーター講座を開催に向け地域へ働き掛けを行い、少しずつ理解が深まり交流に繋がっています。また利用者や家族の意見を聞き、得られた意見は事業所としての取り組みを伝え家族との信頼関係や連携が深まるよう努めています。また消防訓練は自主訓練も含めて年間6回実施し、備蓄もするなど災害に備えています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の実践に向けて、目標、課題を設定し、カンファレンス等で話あっている	法人の理念の基「地域と共にその人らしく」という独自の理念を立て、理念はその時々で現状に合ったものに変更しています。理念を基に、地域の店で買い物など、利用者が地域の中で関わりを持てるよう支援し、利用者の地域との共生や社会性の維持に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所の夏祭りに参加したり、ボランティアの受け入れをしており、新しい地域でも地藏盆の参加や、買物や理髪も地域のお店を利用し、散歩時の挨拶時も含め、積極的に会話を持つ様に心がけている	近隣の保育園から園児、保護者の来訪があり交流を図っています。教会のクリスマス会へ招待を受け参加したり、教会のボランティアが演奏などで来訪し交流しています。町内の方の理解を得るための認知症サポーター講座を予定しており、新たな地域でも交流が深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、認知症サポーター講座を開催している 見学や問い合わせがあった時等に認知症について実践で得た経験をお話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、意見交換、情報交換しサービスの向上に努めている。開催時は、必ず利用者1名は参加をしてもらっており、町内会長や地域住民も参加してもらっている	会議は町内に回覧で参加を呼び掛けてもらい、複数の地域住民や町内役員などの参加を得て開催しています。ボランティアや介護保険制度の活用について話し合ったり、家族から入居後の利用者の変化など、認知症への理解に繋がる話をしてもらい、参加者の事業所への理解やケアの向上等、運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事項があれば、連絡して行く	行政とは主に法人の担当者を通じて行政と連携しています。利用者の介護認定の区分変更について窓口へ訪問して相談したり、行政が開催する実践者研修案内などがあれば、出来る限り参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待マニュアルを作成しており、研修等によって周知徹底し、身体拘束の意味を理解し実践している	職員は事業所にて身体拘束に関するマニュアルを用いて拘束の具体例等の知識を学んだり、法人の虐待防止の研修には事業所から代表者が参加し、伝達用の資料を作成し、全職員に伝達しています。日中は玄関の施錠は行わず、見守りのために利用者をよく知る等の工夫を行い、出かけた様子の利用者には一緒に付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の参加、カンファレンス等で周知徹底をし十分理解し防止出来ている		

洛和グループホーム百万遍(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んでおり、必要であれば活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を説明し、理解を得た上で契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人による満足度調査や面会時等にも要望がないか聞いている。調査結果も家族に報告し、常に意見を出しやすい雰囲気作りを心がけている	家族が事業所に訪問の際には挨拶だけではなく言葉を交わし、意見を引出せるよう声掛けに気を配ったり、電話などでも意見を聞いています。レクリエーションについての意見が出された際にはカンファレンスを開き、日々の中で利用者が関われる事や散歩の機会を増やすなど、サービスの改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、申し送りの際意見や提案を聞く機会を設けている。自由に発言出来る雰囲気作りを心がけている。必要であれば、管理者から事業所長へ報告している	職員の意見はカンファレンスやミーティングの中などで聞き、不参加の職員には事前に意見が無いかを聞いています。また家族の立場に立つて行う職員向けのアンケートの実施を通して意見を出せる機会となっています。キャリアアップや個別面接を年に数回実施して意見を聴き、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の場を多く提供している。又自己評価や個々の実績によって給与の水準を決めている。有休の取得や希望休等で出来る限り働きやすい職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスや法人内で研修を全ての職員が受けられる様、機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議等に参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時には、必ず本人や家族の要望を確認している。本人については、日常の会話などから本人の希望を引き出せるよう実践している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用までに、見学に来てもらったり、相談員を交え話し合い(面接)をする機会を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に管理者が面接を行いニーズの把握に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者の隔てなく家庭的な雰囲気の中で暮らしていける様支援している。又、共に生きるという姿勢で関わっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族もスタッフの一員との意識にもと付いて、随時ケアについて相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会は、定期的にある。家族の支援で、時々外食や外泊している。又、個別外出にて馴染みの場所へ出かけている	利用者の友人や元同じ町内の方の訪問があり、居室でゆっくり過ごしてもらっています。年間の個別レクリエーションで行きたい場所の希望を聞き、映画関係の仕事をしていた利用者や映画の博物館に行ったこともあります。日々のケアの中や家族からも馴染みの関係を知るように努め、家族とも協力しながらこれまでの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に散歩に行ったり、利用者間で話ができる様間を取り持ったり、話をしやすい雰囲気作り、場所の提供をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となった利用者や家族に、又相談等あれば連絡して頂く様、話をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接で生活歴や好みなどをお聞きし、入居後は日々の関りや会話の中で情報を得、個々のニーズの把握に努めている。	利用者、家族、管理者による入居時の面接で希望やこれまでの生活歴やサービス利用状況などを聞き取り、意向の把握に繋げています。日々の支援の中で利用者の様子など職員が気付いたこと等があれば介護日誌に記入したり、カンファレンスで意向や希望について職員間で話し合い、思いが実現できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方をよく観察し、日誌に記入しスタッフが共有し、現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を必ずお聞きし、主治医、訪問看護師からも意見を聞き、アセスメントを行いケアプランを作成している。実施後は定期的にモニタリングし再アセスメントし、ケアプランを作成している。	利用者や家族の意向を取り入れた介護計画を作成し、入居後は3か月で見直し、更に6か月後、1年後に見直しをしています。その後安定している利用者は1年毎の見直しを基本にし、必要に応じて随時見直しを行っています。介護計画を見直す際には、事前に希望記入用紙に利用者、家族、看護師、主治医の意見を聞き、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は言葉や行動をよく観察、記録し、1日の流れや体調の変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に定期的に、また随時確認し要望に応じられるよう努めている。		

洛和グループホーム百万遍(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方に来ていただき防災訓練を行っている。近隣の保育所の夏祭りに参加したり、園児にホームに来てもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続も可能な事を伝えており、継続している利用者の受診対応は家族が対応し、家族を通して情報のやり取りをしている。協力医の往診は月2回あり、24時間連絡できる体制がある。希望により、歯科往診も週1回受ける事も出来る	家族にこれまでのかかりつけ医と、事業所の協力医の選択は可能であることを説明し決めてもらっています。かかりつけ医への受診は家族が対応し、家族の都合により職員の同行にて受診したり、利用者によってはかかりつけ医の往診を受けています。協力医から月に2回の往診を受け、24時間連携体制を整えています。また週1回の訪問看護の他、希望や必要に応じて訪問歯科や訪問マッサージも受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師が健康管理に来ている。その都度、状態を報告し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連携を図り、情報交換している。入院時の情報は勿論の事、こまめに連絡をとり状態把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針を基に、ホームの方針を伝えている。利用者の状態が、重度になった時は、医師と家族、職員等で話し合い方針を共有し、連携を図りながら取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき対応できることなどを説明し同意を得ています。これまでに家族の希望や協力の下、看取りに近い支援の経験があり、往診の医師や家族の協力を得ながら、ホームでできる支援に取り組んでいます。職員のメンタル面にも配慮し、不安なく取り組めるよう看取りについての話し合いを行い、対応方法等も文書化しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、普通救命講習を定期的を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもとで消防訓練を実施しており、その他に2ヶ月毎にホーム独自で消防訓練を行い周知している。地域の方の参加も募り行う予定である	年2回の消防立ち合いの下で日中、夜間を想定した消防訓練と合わせて2か月に1回、消火器の位置の確認や使い方などの独自の訓練を実施しています。消防立会の基で行う訓練では職員の役割を決め、消火、避難誘導などのアドバイスをもらい実施し、消防立会の訓練での課題を独自の訓練で再確認し災害時に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の誇りやプライバシーを損ねることの無い様接し、言葉かけも注意している。個人の意思を尊重し、プライバシーを守る様に努めている	入浴介助の際には、利用者の羞恥心に配慮しタオルを掛けたり、職員間での利用者に関する申し送りをする際にはイニシャルを使ったり、声の大きさなどに配慮し、記録する際にも個人情報他の人の目につかないよう配慮しています。管理者は日々の対応は敬語を基本に優しく丁寧にと職員に伝えており、馴れ合いなどの気付いた点があれば職員間で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常よりコミュニケーションを通じて、本人の思いを知る様に心がけ、利用者の意志を尊重する様聞く(選択)場面を増やす様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常時、本人の意思を確認した上で支援し、希望に添った支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容院を利用したり、美容室に出かけて、その人らしいおしゃれができる様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には、買物から一緒に行き、献立を考えてもらい、準備から方付けまで職員と共にやっている	食材はスーパーへ発注したり、利用者と共に買い物に行き、ホームにある食材を見ながら利用者と相談の上メニューを決めています。調理の中で下拵えや配膳など、利用者のできる事に参加してもらっています。外出時には外で食事を取るように工夫し、週2回はおやつ作りをしています。食事は職員も利用者と一緒に会話をしながら食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は、バランスのとれた献立に努めている。個々の状態によって食事の形態を変えている。食事、水分摂取量とともにチェックシートに記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科衛生士の来訪により指導を受け、毎日各利用者にあった口腔ケアの支援をしている		

洛和グループホーム百万遍(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの理解に努め、トイレ誘導を時間設定以外にサインなどを見極めでの誘導に努めている	利用者ごとの排泄記録を付けて排泄リズムを把握し、トイレで排泄できるよう支援しています。利用者個々に応じて夜間もトイレで排泄する方や日中は布の下着で過ごし、転倒の危険があるため夜間のみ紙パンツを使用している方など家族の意向も聞きながら支援しています。退院時にオムツを使用していた方は、紙パンツやパッド等、入院前の状態に改善できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、内服薬の調整や水分摂取量を増やしたり、適度に運動してもらう等取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間浴等、お好きな時間に入浴してもらえる様に支援している	週3回の入浴を基本に、午後から夕方にかけて入浴を実施し、希望があれば毎日の入浴も可能です。現在は入浴を拒否する利用者はほとんどなく、職員とマンツーマンでゆっくり入ってもらっています。ゆず、菖蒲などの季節湯を実施したり、希望のシャンプー等も持ち込み可能となっており、入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日中の活動量や睡眠パターンを記録し安眠や休息に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等を通じて職員全体が各利用者の服薬において目的・用法・用量について理解しており、その上で利用者の状況に応じたコントロールを医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴、現在の能力や性格を勘案し、負担とならず楽しんで行える役割を持ってもらったり、趣味や嗜好を把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば随時外出の支援をしている。自分で希望できない方には体調、天候等を考慮し随時誘うように配慮している。	雨の日以外には毎朝散歩を実施し、利用者によっては毎日散歩をする方もいます。季節の梅や桜、紅葉などの花見やドライブなどに出かけ、外出の際には外食をするようにしています。また個別の希望を聞いて喫茶店や舞妓を見に街に出かけることもあります。重度の方や外出が好きでない利用者も外気に触れることが出来るように努めています。	



洛和グループホーム百万遍(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し、気に入られた物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望があればその都度支援し、読むことが困難な利用者様には代読している。近年、携帯を所持しておられる場合もあり、使い方も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを数箇所設置し、思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。	利用者同士の関係性や相性を考えて椅子やソファ、テーブルなどを配置しています。快適に過ごせるよう換気をこまめに実施し、空調の温度に気を配ったり、清潔に保てるよう1日1回以上拭き掃除を実施しています。また家族からの要望もあり、装飾などに配慮し、落ち着いた雰囲気作りを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	使い慣れた家具や食器を持ち込んでもらい、使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた家具や食器を使用し、不足している物品については家族様と相談しご本人と一緒に購入している。	居室にはソファ、たんす、家族の写真、本等を持ち込み家族とも相談の上、過ごしやすいよう配置しています。ベッドが備え付けられていますが、生活習慣に合わせて床に布団を敷いて休むことも対応可能です。居室でテレビを楽しむ利用者や来訪者とゆっくり過ごす方など、安心して寛げるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器や掃除道具など分かりやすい場所に置いている。又、洗濯物は皆さんでたたんで頂ける様に支援している。		